

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学部
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学科・系・領域などから成る教育研究組織の実効性を検証し、必要な改善を行う	→学科・系・領域などから成る教育研究組織の実効性の検証（毎年）と必要な改善の実施	A→B に変更
2. 研究成果の社会への還元を目的とした社会学部研究会、学術講演会および学術シンポジウムを定期的に開催する	→社会学部研究会、学術講演会および学術シンポジウムの実施回数	A→B に変更

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目4.0.1	(現状説明) 社会学を核としつつ、隣接諸学をも視野に入れた幅広い学習を可能とし、学生各自の個性と関心に応じた複合的な(多領域にわたる)学習環境を整備するため、3系7領域にわたる幅広いカリキュラムに対応して、教育研究組織を編成している。具体的には、各領域担当者会議を組織し、各領域の開講科目や履修状況などのチェックを行い、責任をもった教育体制を整えている。 また、研究成果の社会への還元を目的とした社会学部研究会を2009年度は9回開催するとともに、学術講演会も2回開催している。
☆ 小項目4.0.2	(現状説明) 教育研究組織の適切性については、学部懇談会(2010年3月10日)において検証するとともに、必要な改善について議論した。
☆ その他	

### ◎効果が上がっている事項

#### 【点検・評価(1)】効果が上がっている事項

小項目4.0.1	
☆ 小項目4.0.2	
その他	



#### 【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

小項目4.0.1	
☆ 小項目4.0.2	
その他	

## ◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目4.0.1	
☆ 小項目4.0.2	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目4.0.1	
☆ 小項目4.0.2	
その他	

## ◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
☆ その他 (自由記述)	

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

○教育研究組織の実効性の検証と改善が適切に実施されています。

## 【学内委員】

○各領域担当者会議を組織しているのはよいと思います。このような組織の適切性について定期的に検証を行っているかどうか求められており、議論が行われているようであれば評価できます。

○教育研究組織の実効性の検証および改善については、開講科目や履修状況などのチェックを定期的に行っており、その点は評価できます。また、学術研究会や講演会なども積極的に行われており、この点も評価できます。ただ、現状に満足せず、今後もさらなる改善に取り組むことが望まれます。

○教育研究組織の適切性については、学部懇談会において検証は行われているようですが、より積極的な検証が行われることが求められます。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ なし

## Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>


<個別的な指標>
